２０２３年度　入社式　社長訓示【東北電力ＮＷ　坂本社長】

１．はじめに

新入社員の皆さん、あらためまして東北電力株式会社、東北電力ネットワーク株式会社への入社、まことにおめでとうございます。心より歓迎いたします。

入社式に当たり、私からは、東北電力ネットワークの使命と、皆さんにお伝えしたいことについてお話しいたします。

２．東北電力ネットワークの使命

東北電力ネットワークは、電力システム改革の一環として、２０２０年４月に東北電力の送配電部門が分社して発足し、今年度で４年目を迎えました。

電気を作る「発電」と、電気をお使いになる「お客さま」をネットワーク設備とサービスで繋ぎ、「電力の安定供給」を最大の使命として、東北 6 県および新潟県で事業を展開しています。

電力の安定供給のために、自然災害や事故時には、東北電力と東北電力ネットワークが協力し、早期復旧に全力を尽くすという使命は両社共通であり、東北電力創業以来、時代や環境が変化しても揺らぐことなく引き継がれてきた、私たちの DNA となっています。

この「電力の安定供給に全力を尽くす」という強い使命感を象徴する出来事が 12 年前の東日本大震災です。

この大震災では、東北電力のお客さまの７割が停電し、地震や津波により電力設備も甚大な被害を受け、東北電力にとって、創業以来の最大の危機ともいえる状況でした。

そうした中、皆さんの先輩は、「一刻も早くお客さまに電気を届ける」という熱い思いを胸に、これまで培ってきたノウハウや技術、過去の災害から得た教訓を活かし、全社員が一丸となって驚くべきスピードで停電を解消し、社会インフラを担う会社としての使命と役割を果たしてきました。

今日から、皆さんと「電力の安定供給」という使命を共有し、一緒に仕事ができることを、大変嬉しく、そして頼もしく感じております。

３.新入社員の皆さんに伝えたいこと

今こうして、皆さんの真剣なまなざしや表情を拝見していると、新たな夢と希望、決意とやる気にみなぎるエネルギーがひしひしと伝わってきます。

どうか今の気持ち、初心を忘れずに、各職場で１日も早く、仕事に必要な知識と技術を学び、実践を積み重ね、会社に、そして社会に貢献していただきたいと思います。

次に、私から皆さんが会社人生をスタートするにあたり、三つのことをお伝えしたいと思います。

一点目は、緊密なコミュニケーションとチームワークに心がけていただきたいということです。

当社における最大の財産は「人・人財」であり、「人財」と「チームワーク」は会社の礎です。

「電力の安定供給」をはじめ会社の中の色々な仕事は、ひとりだけで成し遂げられるものではありません。また、人は物事に対する考え方や得手不得手も異なります。だからこそ、お互いが知恵を出し合い議論を重ね、何が最適なのかを追求する必要があります。

これこそが「チームワーク」であり、チームワークを最大限発揮するために、上司や先輩、工事会社の皆さまなど、一緒に仕事をする方々と、自分から積極的にコミュニケーションを図っていただきたいと思います。

二点目は、「問題意識をもって自分で考え抜く」、「独善とならないよう人の話をよく聞く」、「自分としての最善を尽くしてやりきる」ということ、そして何よりも人間性を磨いていただきたいということです。

私も、４０数年前、東北電力に入社し、色々な仕事・職場を経験してきましたが、その過程で大事にしてきたことでもあります。

私の考える人間性とは、「自分以外の人に共感する心、世のため、人のために尽くす心」だと思っています。

人間性を磨くためには、模範となる人の話を聞いたり、本を読んだり、自ら行動し試行錯誤するなど、色々な方法があると思いますが、必ずや皆さん自身の成長や、やりがい、生きがいに繋がってくるはずです。

三点目は、「コンプライアンスの徹底と安全最優先」についてです。

会社は、様々な法律やルールの中で事業を展開しています。「法律やルールを守り社会の期待に応えていくこと」すなわちコンプライアンスの徹底を図ることは、社会の一員としての会社の義務です。

また、設備の建設や保守など工事会社の方々も含め多くの仲間が仕事をしています。工事に携わるすべての人の安全の確保に全力を尽くすことは、当社の責務です。

「コンプライアンスの徹底と安全最優先」ということを、皆さんの心にしっかりと留めて仕事をしていただくようお願いいたします。

４.むすび

最後になりますが、今、皆さんが思い描いている会社人生を実現させ充実させるためにも、東北電力グループとして果たすべき電力の安定供給という「使命」、困難な課題に対しても常に「挑戦」する気概、そして、大好きな東北・新潟地域の暮らしを支えているという「誇り」を胸に、共に未来を切り拓いていきましょう。

皆さん、これから一緒に頑張ってまいりましょう。

以　上